



# 関西いのちの電話



「ルリカケス」大阪城公園 撮影：中村 伊三信



## 「ボランティアに思う」

元・大和紡績株式会社常勤監査

関西いのちの電話 監事 水口 美里

私は、30年ほど前に友人に誘われてYMCAの活動を支援する国際団体であるワイズメンズクラブに入会しました。YMCAは世界最大の青少年育成団体です。YMCAがここまで成長した秘密の一つは“ボランティア”であると思います。ボランティアは日本語では「奉仕」と訳され、何かタダ働きといったイメージがあり、何かをしてあげるという上から下への施しといったニュアンスがありますが、これは本来のボランティアの意味から外れているのではないのでしょうか。ボランティアというのは、お金持ちが余ったお金を使ってするものではなく、時間やお金のない人でも、何とかやりくりしながら人のためになることをやろうと思って努力し、そのことに、生きる喜びを感じるものだと思います。その意味でボランティアは、何かを人にしてあげるという恩着せがましいものではなく、「させて頂く」ものといったほうが良いかも知れません。

それから、YMCAでは、「分かち合い」という言葉もよく使われます。「分かち合う」ということは、困っている人に一方的に奉仕をするのではなく、お互いに対等の立場で、喜びや悲しみを共に分かち合うことなのです。この「分かち合い」こそ、現代の社会の

中で生きていく上で大切なことであり、それによって、お互いに生き甲斐を感じられるのではないのでしょうか。

子育ての理念として、「他人に迷惑をかけない人になってほしい」という親の言葉をよく耳にしますが、果たして人は本当に他人に迷惑をかけないで生きていくことができるのでしょうか。「他人に迷惑をかけない」という言葉の裏には、「自分も人から迷惑をかけられたくない」というエゴが含まれているように思われます。

マザー・テレサは、「愛」の反対語は憎しみではなく、「無関心」とは言っていますが、「他人に迷惑をかけず、人から迷惑をかけられることを嫌う」人は、少しずつ人に無関心になってしまいます。つまり、人を愛することができない人間になってしまうのではないのでしょうか。

私は、申し訳ないけれど、人に迷惑をかけずに生きていくことは難しいので、これからも人に迷惑をかけながら生きていくことになると思いますが、その分、いのちの電話や、YMCAや、ワイズメンズクラブでの奉仕活動を通して、少しでもお返しができたらいいなと考えております。

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121  
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00 ☎0120-783-556

# あなたは、ただのあなただけで尊い存在です

日時：2018年2月17日(土)  
場所：大阪YMCA会館 2Fホール



講師 小澤 竹俊 氏  
めぐみ在宅クリニック 院長



2月17日(土)  
大阪YMCA会館  
2Fホールにおいて、第36回の  
公開講座が開催  
されました。今  
回はめぐみ在宅  
クリニック院長  
の小澤竹俊氏を

お迎えし、「あなたは、ただのあなただけで尊い存在です」をテーマにご講演いただきました。めぐみ在宅クリニックでは、どこに住んでいても、どんな病気であっても安心して最期を迎えられるように在宅緩和ケアに力を入れています。

冒頭、超高齢少子化多死時代が到来し、少ない生産年齢人口で多くの高齢者を支える社会になっていく中で、地域包括ケアシステムを有効なものにし、持続可能な町にしたいという思いを語られました。

そして、死を前にして苦しみの中にいる人を援助するために、次の5つの課題をあげられました。

## ① 援助的コミュニケーションを学び実践する

相手の苦しみをすべて理解することはできなくても、苦しむ人にとって分かってくれる人になることができる。

## ② 相手の苦しみをキャッチする

「なんで私が…」という理不尽な苦しみに返す言葉はなくても受け取ることが必要。

## ③ 相手の支えをキャッチする

苦しみの中でも穏やかだと思える支えには、「将

来の夢」、「支えとなる関係」、「選ぶことができる自由」がある。

## ④ どのような自分であれば相手の支えを強められるか知り実践する

## ⑤ 支えようとする自らの支えを知る

力になりたいのになれないと、関わること自体が難しくなるが、無力な自分であっても、これでよいと認めることができたとき、困難と向き合い続けることができる。

講演の中で、小澤氏が実際に活動される在宅ケアの現場を紹介するテレビ映像が映し出され、大切な人を支えようとする人が支えを必要としているということがよく分かりました。苦しみの底にある人、その苦しみに寄り添おうと頑張る人、そのどちらもただ存在するだけで尊い。小澤氏が相手の話に耳を傾け語りかけながら、その尊さを伝えていく姿に大変感銘を受けました。

最後に今後は苦しみに向き合う人材育成がより必要であり、そのためには仲間を増やすことが必要であること。関西いのちの電話の活動を広く伝え、仲間を増やして行ってほしいとエールをいただきました。

講演後のアンケートでは、「親を見送った時のことを思い出した」や、「自分の大切な人を見送る時、自分には何ができるのか」という声が寄せられました。自分自身が、そして大切な人がいつか最期を迎えることは、辛く悲しく寂しく苦しい…。そんな思いを浮かべながら、寄り添うことの意味を考えさせられた講演でした。

## いのちのコンサート みんなだれかの大切なひと

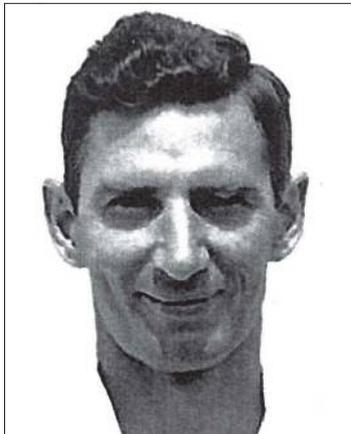
1月28日、大阪市立こども文化センター・ホールにおいて、天然デンネズとその仲間7人による「いのちのコンサート」（関西いのちの電話が後援）が、約250名の観客を集めて開催された。

コンサートは、天然デンネズのボーカリスト勝見智子さんが、谷川俊太郎の「生きる」の詩を朗読して始まった。詩は、「生きているということ」を繰り返し語る内容、そして仲間4人が勝見さんと共演しながら、それぞれ「私にとって生きるということは？」の答えをステージで発表した。彼らの歌う8曲から、「笑顔」「希望」「未来」「家族」「魂の叫び」「望郷」「誕生」「母性」の言葉が浮かんだ。そしてクローズングとして、天然デンネズがこのコンサートのテーマ曲として創作した「いのちの種」を出演者全員で合唱した。

勝見さんは熱く語る。「音楽を通して、若い世代にいのちの大切さや、生きることについて、感じ、考えてもらえれば！」と。



## エルダーものがたり VIII — (1948年～1953年) —



鎮西学院の教師時代 (22歳)

私が派遣された鎮西学院は長崎の原爆で潰されて、田舎の諫早市に移った。校長の千葉先生は卒業したアメリカのBerea大学のような農業と一般教育、両面の学校を作る夢を持って、小高い山の上の広い農地を買った。授業は1キロぐらい離れたバラックでやった。窓を閉めても風で机の上の物は飛ぶ、冬は寒くて暖房などない教室でした。毎日原爆の傷を負っている生徒を見て心が痛んだ。さらに千葉校長は原爆病が進み、ついに亡くなりました。皆が深い悲しみに包まれた。しかし先生も生徒も「新しい教育で、新しい日本を作る」と真剣な気持ちで勉強に励んだ。私は野球部の先生と協力して毎日、寒いながらも楽しかった。

毎週一回、各クラスはその時間の担当の先生と農作業の時間があつた。茶摘み、麦ふみ、田植え、草ぬき、稲刈り、農業指導の先生のもとで、なんでもやった。肥料は一番手身近で安いものを使った。大きい桶に汲んで、二人一組で棒に掛けて、1キロ離れた農場まで運んで行った。生徒たちは親切に、私とボブの為に桶に汲んでくれた。一杯になったら私はすぐ“OK, Let's go!”と勢いよく棒の先を取って歩き出した。生徒たちがクスクス笑ったのでボブはなぜ笑うかと聞いた。するとある生徒が鼻をつまんで棒の後ろの方を指した。ばれちゃった! 私は暫らく償いとして後ろを取った。鼻をつまみながら。

いろんな所で話をすることを求められた。デモクラシーは流行り言葉だった。生徒指導の先生はある日涙ぐんで、「俺は軍隊教育しか知らない。デモクラシーの生徒指導を教えてください」と私に真剣にきいた。彼は英語が出来なかつたし、私も日本語が出来なかつた。辞書で単語を引きながら少し“会話した”。私は日本語を覚えたいと強く思った。

アメリカの生活と価値観について聞きたいと近辺の学校から誘いが次々あつた。いつも通訳を通してやったが、苦勞しているのを見て、有難く思いながらも、なにを言っているかと心配した。「何が何でも日本語を勉強したい!」

当時、同じ大学を卒業した私より一年下の女性、ア

イリンと日本に行くことを通して親しくなっていた。夏の研修の中でより親しくなつて、日本での三年の契約が済んだら結婚しようと約束していた。しかし、彼女も私も将来日本で活動したいし、早く日本語を勉強したいと思っていた。今結婚して、日本語を勉強して、普通の宣教師になりたいと言つたら、オーケーを受けた。日本に来て一年目のことだつた。それからの二年間の勉強は、三時間の授業と五時間分の宿題で大変だつたが目標は、はっきり持っていた。

二年間の日本語の勉強を終えて、鎮西学院に戻つた。少し日本語は出来たので、生活が変わつた。私は中2のクラス担任をさせられた。生意気で、可愛かつた。お互いにからかつたり、笑つたりした。アイリンもクラスを教えたし、長男は生まれだし、鎮西学院の豊かな二年間だつた。しかし私の勉強は残っていた。

結局五年間日本にいてから、大学院に戻つて残っていた勉強を済ませて学位を貰つた。普通の神学コースだつたが、日本で大勢の方の生活問題に関わつたので、カウンセリングの授業も出来るかぎり多く取つた。その時は、将来「いのちの電話」でそれを生かすことになるとは思ひもしなかつた。

鎮西学院に戻つてきて欲しい、関わっていた大村教会もそう言つていたので、私ははっきり諫早に戻る考へだつた。しかし、私が所属している日本キリスト教団の人事担当をする委員会で、鳥取に行つて欲しいと言われた。私は鳥取について知つていたことは二つ。戦後5,000戸の家・建物は大きな火事でやけたことと、新聞の写真で見た、鳥取駅内の線路に1メートルの雪が積もつていたことだけ。未知の世界に飛び込んで行く感じだつたが、初めて日本に来た時に比べれば、家族ができたし、不安は小さく引き受けることにした。

## ウィリアム・エルダー (William Elder)

1926年生まれ。1948年宣教師としてアメリカから来日、以来70年間日本在住。1973年東京英語いのちの電話(TELL)設立時の研修に関わり、1980年に関西いのちの電話の研修担当として相談員の育成に尽力し、現在もグ



2018年3月「祝賀会」にて

ルーブリーダー、スーパーバイザー、養成講座講師など関西いのちの電話の重鎮である。指導における温かい視点、そのわかりやすさには定評があるが、何より人間性の豊かさ、懐の深さに感銘を受けることが多い。大阪女学院短期大学名誉教授。

## あたたかいご支援ありがとうございます

2017年11月1日～2018年2月28日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付またはバザーなどへのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。  
(五十音順・敬称略)

### 【個人】

浅野 敏行	大塚 昭男	加藤 昌子	島田 榮一	高宮 尚子	中野 桂子	三浦 直之
石原 紘	大塚 伸二	鎌田 史朗	嶋田 佳子	瀧 成和	檜崎 十紀	南谷 要子
伊藤 誠一	大津 久直	神谷 尚孝	島田 恒	竹村 武男	新田 精一	宗像千代子
今村 良子	大畑 了子	岸本 彰五	下岡 佳子	田中 豊子	林 幸	森田 和典
入江 保夫	岡崎 信恵	北之坊皓司	白方 誠彌	坪内 憲治	平栗 勲	山内 信三
上田 秀子	小頭 誠	小村 典子	笑福亭松枝	道免 逸子	藤田 義夫	山口 健一
上村あけみ	小川 弘二	酒井 哲雄	菅谷 道子	永江 健	藤田 淑雄	山本 雅司
宇野 徹	落合 雅子	佐治美知子	杉浦真喜子	長野加代子	誉田 俊郎	吉村 幸三
大久保萬里子	小野 信子	左藤 章	杉山 邦子	中埜由美子	松野 五郎	匿名 11名
大坂 雅巳	片山 巖	幣原 直子	隅田 保	中野 爲夫	眞野 和子	

### 【団体】

特定非営利活動法人 あすなるの家のいのちのコンサート実行委員会	聖心会 小林修道院	日本基督教団 大阪教会	日本基督教団 東梅田教会
援助マリア修道会(西宮)	カトリック鈴蘭台教会	日本キリスト教会 池田教会	日本基督教団 武庫之荘教会
援助マリア修道会(福山)	(医)菱仁会かめだクリニック	日本キリスト教会 大阪北教会 婦人会	日本自由メソジスト教会 布施源氏丘教会
大阪クリスチャンセンター	河電産業株式会社	日本キリスト教会 香里園教会	日本聖公会大阪教区婦人会
大阪聖愛教会	関西学院宗教活動委員会	日本キリスト教会 西宮中央教会	日本ナザレン教団 大阪桃谷教会
大阪聖アンデレ教会	合資会社 寿屋	日本基督教団 阿倍野教会	日本バプテスト宣教会 池田キリスト教会
大阪聖ヨセフ会本部	コニシ株式会社	日本基督教団 池田五月山教会	日本バプテスト同盟 曾根キリスト教会
大阪帝塚山ライオンズクラブ	在日大韓基督教会京都教会向上社保育園	日本基督教団 石橋教会 婦人会	能勢ライオンズクラブ
大阪ひごばし法律事務所	在日大韓基督教会 堺教会	日本基督教団 大阪教会	融通念佛宗 法蔵寺
大阪YMCA	庄内キリスト教会	日本基督教団 大阪東十三教会	正岡クリニック
大阪YMCAサンホーム	聖バルナバ病院(サマリヤ会)	日本基督教団 交野教会	レデンブトリスチン修道院
大阪YMCA学院	聖母奉献修道会	日本基督教団 聖峰教会	渡辺クリニック
大阪YWCA	日本イエスキリスト教団 垂水教会	日本基督教団 塚口教会	匿名 3名
小林聖心女子学院 中高奉仕部	日本カトリック教会 玉造教会	日本基督教団 天満教会	
	日本カトリック教会 枚方教会	日本基督教団 豊中教会	

●他に相談員・理事・評議員・有志などが支えています。

## こんなこともやりました!ありました!

### 2017年12月～2018年3月

- ・12月1日 大阪YMCA学院高校講演「共生社会」
- ・12月6日 豊中市メンタルヘルス対策推進会議
- ・12月8日 大阪YMCA学院高校講演「共生社会」
- 2018年……
- ・1月16日 大阪YMCA学院高校講演「共生社会」
- ・1月19日 2017年度第4回理事会
- ・1月23日 近畿・中部ブロック会議(in 京都)
- ・1月24日 豊中市立第8中学校「いのちの授業」振り返りの会
- ・1月28日 いのちのコンサート
- ・1月31日 豊中市メンタルヘルス対策推進会議
- ・2月1日 「子ども・若者のメンタルヘルス対策」専門部会会議
- ・2月8日 2017年度第2回公開セミナー&ボランティア説明会
- ・2月15日 豊中市立第9中学校「いのちの授業」振り返りの会
- ・2月15日 社会福祉法人指導監査(大阪市)
- ・3月10日 認定式・感謝式
- ・3月13日 第2回評議員会、第5回理事会
- ・3月24日、29日 第54期養成講座受講応募者面接

## 募金をお願いします

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています。皆さまのご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。いのちの電話の活動を支えてください。

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。

口座名義：社会福祉法人関西いのちの電話

口座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480

：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

## 2017年度歳末募金のご報告とお礼

関西いのちの電話事業のために、ご支援・援助を賜りありがとうございます。さて、昨年12月より、歳末募金を皆さまにお願いしましたところ、個人寄付(94件)840,211円、団体寄付(50件)598,414円、総額(144件)1,438,625円のご寄付をいただきました。(3月6日現在)

ここに、結果をご報告し、ご協力いただきました皆さまにお礼申し上げる次第です。どうぞ今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(財務委員会)

## 52期相談員認定式・永年感謝式、おめでとうございます

春の陽光に満ちた3月10日、52期認定式・永年感謝式が行われ、新しく相談員に仲間入りした52期24名に認定証が、活動10年の方26名、20年の方10名、30年の方4名、40年の方1名に感謝状が贈られました。

52期の新相談員からは、緊張した面持ちながらも認定を受けほっとした思いと感謝、またこれからの活動への意欲が語られ、仲間を得た喜びと熱意に心が熱くなりました。

長年相談員を続けてきた方々からは、家族や仲間へ、またかけ手への深い感謝の思いが話され、この感謝の気持ちこそが継続への原動力であることが感じられました。

51期の方が準備してくださった祝賀パーティは温かいおもてなしにあふれていました。心のコもったセッティングや楽しいプログラム、中でも51期生による替え歌とKAIND劇団の朗読劇は、楽しいながらも相談活動の大変さをちょっぴり盛り込み、相談員の大きな共感を得ていました。みなさんにとって、華やかで心温まる時間になったことと思います。



### 「ふりかえって」

何年前か、恒例の花火を見る会で隣席の男性から「長年続けておられますがその訳は」と尋ねられました。私は一呼吸置いて「物好きというのか地理的に恵まれている」と。彼曰く「人（この場合は3人称）が好きなんですね」と。大輪の花火が上がり、思わず席を立ち会話は中断したように記憶しています。

さて、センターが移転し初めてのメ切日9月15日夕刻、迷い迷って薄暗い階段を昇り願書を。時の総主事向井金蔵さんはニコニコと迎えてくださいました。

「目は口程に物を言い」と言われますが相手の見えない電話、唯一聴覚が頼り、いつ切るか切られるか。もろ刃の剣です。録音もそう、同じ立ち位置。不条理な社会の中で「生き甲斐」を喪失しつつあるかけ手、ぎりぎりまで模索している。私も模索、研鑽の毎日。与えられた活動に感謝です。ひたすら傾聴に心がけ寄り添う姿勢をと念じつつ。

11期・E.N.さん

### 「誰かに、何かを」

子供達を犠牲にして37歳で離婚。自分を責めると言う痛みを孕む苦しい生活が続いた。親不孝をしてしまった妹を応援してくれた姉、兄夫婦。私達親子をいつも気に掛けてくれた人達。違う国の人との素晴らしい出会い。

こんなに沢山の人から貰えた「温かいもの」を「誰かに何かを返さんとあかん!!」とずっと思っていた。いのちの電話に出会えた事は衝撃だった。こんな事が果たして私に出来るのか？でも、やってみたい。恐ろしいような思いで応募しました。母と兄の死。子供達の巣立ち、転職、孫たちの誕生。数々の出会いと別れ。未熟な自分との対峙。あれから20年。私は、誰かに何かを返せたのか？

とんでもない。それ処か逆にかけ手から貰っています。聴こうとする足掻きの中、心が通じ合った時のあの言いようのない温かいもの。一緒に笑えた瞬間。厳しくも信頼できる先生。頑張っている仲間。学べる機会も頂ける。感謝の気持ちを心の真ん中に、もう少し続けたいと思っています。

32期・E.O.さん

### 「うまくなりたい」

30年振り返ってみれば本当に早かったなと思ってしまう。やり始めたころは自分が30年も続くとは思ってもしなかった。毎回緊張しながらブースに入っていたように思うし、ブースに入るのが本当に気が重かったことが思い出される。最初おうむ返ししかできなく、これでいいのだろうか毎回自問していた。色々な研修を受け本を読み自分なりに模索しながら、ようやくそこそこの聞き方ができるようになったと思えるようになったのはここ数年のことだろうか。今でも受話器をとる瞬間は緊張が走る。かけ手が「死にたい」と言えば、その気持ちを変化させられないかと頭の中はフル回転する。若いころなんとかうまくなりたくて、多くの方に教えを乞うた。「どうしたらうまくなれるのですか」と。奇しくも私の尊敬する2人のマスターセラピストから同じ答えが返ってきた。「そうやねえ、必死に考えることかなあ。お金もらってるからそれに見合うだけのことをしようと必死に考えることかなあ」本当に意外な答えだった。何か上達するトレーニング方法でもあるのかと期待していたのに、こんな超ベテランも必死に考えてるんだと。同じケースは存在しない。ブースからの帰り道この聞き方でよかったのか、他の聞き方はなかったのか毎回自問しながら帰りに就く。

23期・A.K.さん

### 「生き抜いていこう、共に」

忙しさに追われて過ごしていた時期、「自分の時間を創りたい」と飛び込んだのが12年前。これが関西いのちの電話とのつながりのスタートでした。多くの方々の支えで今日を迎えられたことを感謝したいと思います。ありがとうございます。

43期は認定者が多く、相談員として活動していく中で刺激をいただくことが多々ありました。10年という長い期間を活動できたのは、この同期の存在が私の大きな支えでした。中でも、宿泊研修で一緒にグループだった方たちとは挫けそうな時期を共に乗り越えていける関係を築くことができ、「無理をせず細く長く、できることから」を合言葉に歩んできました。今後ともよろしくお祈りします。

かけ手の方々の様々な声に耳を傾けて10年、それが自分自身を見つめることにつながっていると気づかされる日々でした。

「一度きりの人生、生き抜いていこう、共に」  
ブースに入り、この言葉を心でつぶやき受話器をあげています。

43期・K.O.さん

関西いのちの電話 第23回 チャリティーコンサート

天満敦子 ヴァイオリンコンサート

●日時：2018年10月26日(金) 18:30(開演予定)

●会場：いずみホール 大阪市中央区城見1-4-70 JR大阪城公園駅より徒歩3分

チケット：前売り3,000円(当日3,500円)

チケット取扱い：関西いのちの電話事務局

T E L : 06-6308-6868

F A X : 06-6308-6180

E-mail : kaind@age.ac



## 問いかけることと共感 7 「いま、ここ」での問いかけ

私たちはかけ手の相談者に「あなたの今の気持ちを、心の叫びを聴かせてください」「ありのままのあなたと出会いたいのです」と伝えたい気持ちをしっかりと持ちながら、電話相談の〈いま、ここ〉に向き合おうとしています。

しかし、電話を終えた後の相談員・聴き手の感想を調査してみると、相手との応答がかみあわず困惑している姿が浮かび上がってきます。相談員自身がその困惑を受け止めるには二つの傾向があります。

一つは、自分の聴き方が至らなかったのではないかと自分を責める傾向。もう一つは、どのように応答してよいか分からないので、すっきりしない気持ちを引きずっているという傾向です。

それらの電話は、数時間におよぶ長い電話・一方的に中断される電話・かけ手がこちらの対応に対して怒りをぶつける電話・とりとめもない日常会話に終始する電話・一度終了して受話器を置いたのに

ぐに同じ人からの電話・内容がつかめない電話などなど。

私たちは、このような電話を拒否したり、ないがしろにしたりはしたくないのです。むしろ、このような電話によって、私たちの聴き方やあり方が鍛えられることを知っているからです。

これらの電話にしっかりと向き合う原点は、傾聴（アクティブ・リスニング）です。

それは、電話の〈いま、ここ〉で、この人は何を感しているのだろうか。何を必要としているのだろうか。この人に対して私はどのように感じ、何をしようとしているのだろうか。そして、この人がもっと幸せに自律した生き方を選ぶために、この電話で、私にできることは何か。

この問いかけを自分にすることで、浮かび上がってくる自分の感情や価値観を、相手に差し出すのです。それを相手を受け取ったときに、電話のなかで相手とのより深い信頼関係が生まれ、対等な人間として成長するのだと思います。

（長尾文雄・元大阪女学院大学/短期大学講師）

## 「傾聴セミナー&ボランティア説明会」を開催

2月1日(木)クレオ大阪・東において、傾聴セミナーとボランティア説明会を開催しました。セミナーでは、関西いのちの電話の設立当初から相談員の育成に携わってこられた誉田俊郎氏から「電話で隣人に寄り添うということ」をテーマにご講演いただきました。隣人の心に寄り添う大切さ、相談員として身につけるべき傾聴やその姿勢、電話相談ならではの特性について説明された後、ご自身の心に残る経験を紹介していただきました。

講演後、ボランティア説明会で電話相談活動について具体的に説明しましたが、誉田氏の講演のお蔭でこの活動の必要性をさらにリアルに訴えることができました。一人でも多くの方の応募に繋がれば幸いです。



この広報誌は、平成29年12月に実施されたNHK歳末たすけあい配分金を受けて作成したものです。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

### 編集後記

4月号は恒例の認定式・感謝式の記事が1ページを占有。新たに認定された相談員24名が新年度から相談活動に参加。長年相談活動を続けてこられた節目の期を代表して4人が「思い」を投稿。

相談活動への参加動機は個人々様々、認定時に共通するのは熱い意欲であろう。活動継続者4人の「思い」は、全相談員の「思い」をほぼ代表している。仲間との「友好」。関係する人への「感謝」。より良く聴くための「自問」。そしてかけ手も含めて「支え・支え合う」関係。それらが個々の相談員の活動継続のエネルギーと確信。  
(H.S.)

### 電話相談受信状況 (2017年~2018年)

受信月	11月	12月	1月	2月
受信件数	1,893件	2,028件	2,018件	1,762件
相談員数(延)	491人	508人	500人	459人

### 社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局：〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72  
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180  
発行人：李 清一 編集：広報委員会  
ホームページ <http://www.kaindnew.com>